

V 地球温暖化への適応

5-1. 地球温暖化への適応

地球温暖化対策には、大きく分けて温室効果ガスの排出抑制による「緩和（排出削減）」と、温暖化の影響に対して自然や人間社会のあり方を調整する「適応」があります。

すでに、地球温暖化の影響ではないかと考えられる事象が現れつつあることから、温室効果ガスの排出削減による「緩和」と同時に影響への対処として「適応」の取組も必要となります。

5-1-1. 防災

(1) 河川の防災対策

気候変動の幅が広がることにより、渇水と洪水の発生するリスクが高まっています。河川改修や洪水調節施設整備等の「河川で安全を確保する治水対策」を進める必要があります。

(2) 沿岸域での防災対策

沿岸域では、海面水位の上昇に伴う影響を直接受ける可能性があります。沿岸域での災害リスクの増大等に対応するため、適応策を検討する必要があります。

5-1-2. 水資源

(1) 生活水対策

年間降水量が極端に少ない年が増えるとともに、少ない年と多い年の年間降水量の差が次第に大きくなってきています。極端な渇水等が起きた場合の生活水の確保について準備しておく必要があります。

(2) 農業用水等の対策

生活水と同様に、極端な渇水時において食料生産に必要な農業用水等の確保について準備しておく必要があります。

5-1-3. 食料

(1) 農産物への高温障害対策

夏を中心とした高温や暖冬時の晩霜など、米や果樹、野菜等において、被害を受ける可能性が高くなっています。高温による品質の低下や収量の減少等に対応するための生育環境への対策や、気温変化に強い品種の育成などの対策を進めていく必要があります。

高温に対応した米の品種導入

本県水稻の基幹品種「コシヒカリ」については温暖化等の影響を受け、平坦部を中心に品質が低迷していることから、高温登熟性に優れた高品質・良食味品種の導入のため産・学・官が一体となったプロジェクトチームを立ち上げ、検討を行っています。

現在、現地実証ほ場で新品種「つや姫」「島系 68 号」を栽培しています。

(2) 畜産への高温対策

肉牛や乳牛、養豚、養鶏など、畜産業においても夏の高温による影響が懸念されています。畜舎等の気温を下げる、家畜の体感温度を下げる、栄養管理技術を改善するなどの対策を行う必要があります。

畜舎の高温対策

高温時の畜産対策として、散水や扇風機等による畜舎内の気温上昇の抑制指導を行っています。

5-1-4. 自然生態系

(1) 生物多様性の保全

温暖化に伴う気温上昇等により生物の多様性に影響が出るものが予測されます。そうした状況の調査や研究を行い、対応策などを検討していく必要があります。

(2) 森林分野における地球温暖化適応策

気温上昇等により、長期的には、植生の変化や森林における動植物の生態・活動への影響をもたらすと予測されています。また、集中豪雨等による山地災害も懸念されています。

このような森林への温暖化の影響に対する対応策として、森林への影響評価、森林病虫害等の被害対策、森林の保全等の知見が求められます。

5-1-5. 健康

(1) 熱中症予防に向けた情報提供や普及啓発

夏の高温による熱中症被害が増えています。熱中症についての基礎知識、対処法、予防対策等について広く情報提供や普及啓発をし、十分な熱中症対策を行う必要があります。